

ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ

全曲演奏会シリーズ 第5回

小菅

ピアノ・ソナタ第19番
ト短調 Op.49-1

Piano Sonata No.19
in G minor Op.49 No.1

ピアノ・ソナタ第20番
ト長調 Op.49-2

Piano Sonata No. 20
in G major, Op.49 No.2

ピアノ・ソナタ第7番
二長調 Op.10-3

Piano Sonata No.7
in D major Op.10 No.3

ピアノ・ソナタ第12番
変イ長調 Op.26

Piano Sonata No.12
in A-flat major Op.26

ピアノ・ソナタ第26番
変ホ長調 Op.81a 《告別》

Piano Sonata No.26 in E-flat major
Op.81a "Les adieux"

BEETHOVEN PIANO SONATA CYCLE VOL.5

YU KOSUGE

優

2013年3月8日(金)

19:00開演 (18:30開場)

紀尾井ホール

Friday, March 8, 2013 at 7 p.m. Kioi Hall
全指定席 ¥5,000 主催: KAJIMOTO

ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ全曲演奏シリーズ 次回以降のプログラム(予定)

- 第6回目 ピアノ・ソナタ第8番「悲愴」/第4番/第22番/第23番「熱情」
- 第7回目 ピアノ・ソナタ第5番/第11番/第29番「ハンマークラヴィア」
- 第8回目 ピアノ・ソナタ第30番/第31番/第32番

(※当初発表されていた各回の曲目に変更がございます。)

一般発売: 12/23(日)

チケットのお申込み

カジモト・イープラス 0570-06-9960

カジモト・イープラス 検索 <http://kajimotoeplus.com/>

※音声自動応答で承りますが、オペレーター(10:00~18:00)もご選択いただけます。
ホームページからお申込みいただけます(パソコンもケータイも同じアドレス)。

チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード: 188-857)

e+(イープラス) <http://eplus.jp/>

CNプレイガイド 0570-08-9990

ローソンチケット 0570-000-407

紀尾井ホールチケットセンター 03-3237-0061

0570で始まるナビダイヤル番号は、PHS、IP電話など一部の回線からは接続されない場合がございます。
NTT加入電話、公衆電話などをご利用願います。



便利なケータイサイト
もぜひご利用ください。
iモード・EZweb・
Yahoo!ケータイ 対応
チケットもご購入
いただけます。

KAJIMOTO

Yu Kosuge Beethoven Piano Sonata Cycle

第5回によせて

小菅 優

6月に私の師匠だったカール・ハインツ・ケマリング教授がお亡くなりになりました。たくさんの思い出と共にレッスン風景ひとつひとつが浮かびます。10歳のときに出会ってから、大人を相手にするように私に問いかけ、説明し、時には怒られました。子供の私にとって彼の言葉は大事な教えであり、その言葉をよく考え、自分の言葉に変えていくプロセスは、人間として、音楽家としての成長の糧でした。

Op.49の2つのソナタは「やさしいソナタ」とされ、だいたい“子供”が通る道になっていますが、中身は“大人”です。特に1番は数少ない短調のソナタの一つで、その「影」というか、暗い「訴え」をつかむのは決して「やさしい」ことではありません。ケマリング先生がドイツの幼い少年にこのソナタを教えているのを見たことがあります。その子がどんなに若いにもかかわらず、最初の6度上がったbの「その音を感じて、感じて」とひっきりなしに言っていたのをよく覚えています。ベートーヴェンのソナタは子供にとって理解するのはかなり難しいですが、音1つ1つを純粋に「感じて」弾くことは子供にでもできる解釈の第1歩だと思います。

「告別」ソナタの古くなった楽譜をもう一度出してきて見ました。10代のときに先生が書き込んだ注意でかなり埋め尽くされています。その書き込みの中、第1楽章の左手のモチーフには「蹄の音」(去る者の馬の音が聞こえる)、第2楽章では「痛み」、第3楽章では「期待」などの言葉が目にとまりました。このプログラムのソナタは、別れ、不在、再会と楽章ごとタイトルがついていて、「告別」という全体のタイトルによって悲しいイメージがあるかもしれません。しかし、最後に再会が待っている。この「再会」では会う前の喜び、「もう待っていない」

とでもいうような期待感がずっと心をざわめかせ、最後は満足感と共に終わるのです。

お別れの後はいつか再会がある——しかし、もちろん必ずしもそうとは思えない——でもベートーヴェンは天国にいるたくさんの最愛なる人々に、音楽を通じて再会させてくれるのだ。きっとケマリング先生も最後まで研究し続けたベートーヴェンに出会って握手をしてるのだろうと、ふと思いました。



photo ©Marco Borggreve

Profile

小菅 優 (ピアノ) Yu Kosuge, Piano

高度なテクニックと美しい音色、若々しい感性と深い楽曲理解で最も注目を浴びている若手ピアニストの一人。2000年にドイツ最大の音楽批評誌「フォノ・フォルム」より、ショパンの練習曲全曲録音に5つ星が与えられた。9歳より演奏活動を開始し、その足跡はヨーロッパ、米国、日本など年に40カ所以上に及ぶ。05年ニューヨークのカーネギーホールで、翌06年には、ザルツブルク音楽祭でそれぞれリサイタル・デビューを行い、大成功を収めた。

これまでにドミトリエフ、デュトワ、大植、ノリントン、オラモ等の指揮でベルリン響、フランクフルト放送響、シュトゥットガルト放送響、ハノーファー北ドイツ放送フィル、サンクトペテルブルク響、フィンランド放送響等と共演。ザルツブルクをはじめラインガウ、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン等の国際音楽祭にも出演し着実に活躍の場を広げている。2010年

ザルツブルク音楽祭で、イーヴォ・ポゴレリッチの代役としてフィリップ・ヘレヴェツェ指揮カメラータ・ザルツブルクと共演し、絶賛を博した。また、東京、大阪でベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏会(全8回)を行う。

録音は、最新盤の「モーツァルト：ピアノ協奏曲第20番&22番」や「ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ集 第1巻『出発』」を含む11枚のCDをソニーより、その他にも、尾高忠明指揮/オーケストラ・アンサンブル金沢との「モーツァルト：ピアノと管弦楽のためのロンド 他」(ワーナーミュージック・ジャパン)、ラデク・バボラークとの共演による「シュトラウス：ホルン&ピアノ作品集」(オクタヴィア)をリリースしている。

第13回新日鉄音楽賞、04年アメリカ・ワシントン賞、第8回ホテルオーケストラ音楽賞、第17回出光音楽賞を受賞。